

件名	第20回 蒲田都市づくり推進会議	
日時	令和6年10月25日(金) 13:30~15:00	場所: 大田区産業プラザP I O 4階コンベンションホール
出席者	25名出席(東京都代理出席2名とオブザーバー国交省1名のWEB参加含む) 別途資料参考	
配布資料	第20回蒲田都市づくり推進会議資料	

◆開会

- ・鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長より、挨拶及び資料確認。
- ・座長の日本大学理工学部 土木工学科 大沢教授より開会挨拶。

◆出席者紹介

- ・今年度から新しく委嘱した委員として、蒲田東口商店街商業協同組合 藤田 義行 理事長と、区議会議員のまちづくり環境委員会 高瀬 三徳 委員長、まちづくり環境委員会 秋成 おさむ副委員長の紹介を行った。

◆資料説明(報告)

- ・鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長より、新空港線整備事業について説明を行った。(資料1)
- ・鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長より大田区駐車場整備計画(蒲田地区)についての説明を行った。(資料2)

◆意見交換

蒲田再開発推進委員会 委員長

駐車場施設に余剰が生じているという前提条件について、蒲田のまちとしてどういう人を対象に駐車場を用意しようと考えているのか、まちづくり計画ともリンクしてくる。マンションの付置義務駐車場の余剰はあるのかもしれないが、買い物や駅を利用する人にとっては駐車場がないのが実情ではないか。まちづくりの方向性と合わせて対応して頂きたい。

⇒拠点整備第二担当課長

資料では、地域ごとの駐車場の利用率をお示ししている。一方で路上駐車が発生している現状は、適切な場所に駐車場が配置されておらず路上駐車が発生している可能性も考えられる。その点も含めて、蒲田のまちとして、来街者、住民の車を上手く誘導していけるか検討していきたい。

◆資料説明(議事)

- ・鉄道・都市づくり部拠点整備第二担当課長より蒲田駅周辺地区におけるまちづくりについての説明を行った。
- ・大沢座長より、座長の立場ではなくまちづくりの専門家という客観的な立場から2040年代を見据えたまちづくりの考え方について紹介頂いた。
- ・鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長より大沢教授の2040年代を見据えたまちづくりの考え方で紹介された「駅まち空間」や「ウォークアブル」について、蒲田駅周辺地区グランドデザインにおいても記載されていることについて説明を行った。(資料3)

◆意見交換

座長

「2040年代を見据えた蒲田の交通ネットワーク」について、人と車の視点から、まちの現状と課題を踏まえ「居心地よく歩きたくなる空間」、「駅から人をまちに流し、にぎわいを生む方法」、「交通機能の集約に合わせた道路空間の再編及び活用方法」の3つの論点をもとに意見交換を行いたい。

蒲田東口地区まちづくり協議会 会長

駅前広場が楽しめる空間である事が大事だと再認識した。東口駅前広場の交通島は、工事中、暫定広場として、小さいながらも人工芝を敷いたところ、高校生が人工芝でくつろいでいる光景を初めてみた。もう少し大きいスケールで続けば良いと、地元の意見として頂いている。滞留できる空間整備を期待したい。都市の整備と蒲田らしさが融合する事が大事で、繁華街である蒲田では、食とお酒、個性的な店も多く存在し、ごちゃごちゃ感、カオス感も含めて蒲田の魅力だと感じている。一方で、京急蒲田駅周辺など利便性を求めて駅の近く

に住む若い子育て世代も増えている。将来的には過ごしやすいまち、歩きやすいまちに向けた空間づくりも必要だと思う。蒲田の魅力と相反するが、両立していく必要がある。

⇒座長

蒲田の個性をどう伸ばしていくか。一方で子どもたち世代も出てくる中で、大きな課題だと思う。毎週末ラゾーナ川崎に行くのではなく、蒲田で楽しく遊ぶ、大田区で過ごす事を考える必要がある。

蒲田再開発推進委員会 委員長

まちの将来を考えた時に、全体の交通計画をもう一度見直していく事が必要ではないか。東口では、さかさ川通りを整備しそれなりに賑わいの拠点になっている。これからどう広げていくかが1つ。一方で西口を考えると、東急線とシンボル道路（補助37号線）でまちが分断している。例えば、思いきってここを全て緑道にする。それくらいのことを考えても良いのではないか。そうすると、バスやタクシーをどうするのか考えていく必要がある。ごちゃごちゃしているだけではなく、空間を作る事を道路にも考えた方が良い。もう1度シンボル道路のあり方を考えたら面白いのではないか。

また、交通ネットワークと駅前ロータリーの在り方はリンクしていると思うが、その議論があまり出ていない。西口駅前広場はロータリーとして車が入り込んでいるので狭く感じるが、新橋のSL広場は片方一車線しかない。なるべく道路を跨がないで駅前広場を使う事を考えてほしい。何度が提案をしている。検討頂きたい。

⇒座長

ポイントポイントの交通対策ではなく、蒲田全体の交通の在り方を示したほうが良いのでは、というご指摘を頂いた。

蒲田西地区自治会連合会 会長

新空港線整備とまちづくりと一緒に考えなければいけない。新空港線整備により池上線・東急多摩川線が地下に整備されたら、西口の地上レベルでは線路だった部分を西蒲田公園まで広場にしていって西口に広い広場空間が出来る。そういう事も構想に入れながら新空港線の計画とまちづくりと一緒に進めて頂けるとありがたい。

そうすると東急駅ビルの考え方も変わってくる。東急と一緒に考えながらやって頂きたい。

⇒大田区 鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長

新空港線整備では、東急多摩川線が地下化され池上線は高架のまま残る計画になっている。現段階ではお答えできないものの、長い時間はかかると思うが検討の余地はあると思う。

まちづくり環境委員会 副委員長

令和4年度から区長が子供施策に力を入れている。先生が考える蒲田にふさわしいサードプレイスとは何か。

⇒座長

蒲田のサードプレイスは、個性豊かな飲み屋街だと思っている。若い人が好きかは分からないが、ある年齢層以上からいくとスナック文化のようにほっとする。もしかすると仲間にあえるかもしれないし、仲間が出来るかもしれない。そこが蒲田らしさだと考える。一方で若い人などは、ラゾーナ川崎が良いという人たちもいる。

全ての年齢層に対して良い答えはない。都内でも個性が豊かだったまちが、ある時からチェーン店が多くなり、金太郎飴みたいなまちになり嫌われてしまった都市もあった。皆でビジョンを共有した上で、考えながら、蒲田が築いてきた個性豊かな魅力をみんなで育て続ける事が重要だと思う。

特定非営利活動法人 大身連 理事長

駅については賑わいも大切だが、歩く方向を決める等、高齢者や障がい者など歩行が困難な人に対しても使いやすい駅・駅前広場を考えて頂きたい。

⇒座長

人が多すぎて、移動しづらい、危ないといったマイナス効果に繋がることもある。人が集中して危険であることを、どう解決していくか答えが難しいが、十分な空間と、ソフト面の充実、例えば、スマホで混雑情報をとって、上手く活用しながら移動を考える事もある。ハード整備と合わせてソフト面の在り方についても議論をする必要がある。

蒲田西口商店街振興組合 理事長

蒲田駅西口について、駅を降りると正面に魅力的な建物がなく、交通島は喫煙スペースで、居心地の良い広場ではない。道幅も狭いため広げてもらいたい。かつては映画館があった。シネマ発祥の地なので、西口のどこかに文化的な施設を作ることを考えほしい。合わせて人が集まるような空間を作ってもらいたい。他は、バスの集約化である。歩道が狭くなっているのでも、上手く作ってほしい。

⇒座長

ご指摘の通り、駅から出た時の印象は悪く、魅力的ではない。再開発があればそれに合わせて、どう魅力的にしていくか。蒲田の文化として、「シネマ発祥の地」をどう継承していくのか、検討頂ければと思う。

蒲田東口商店街商業協同組合 理事長

蒲田はカオスな部分はあるが、安心して呑んで、落ち着ける場所がある。商店街として、おしゃれなまちである必要はないと考えている。蒲田らしい、安心できる親しみのある商店街を目指していきたい。

⇒座長

ほっとできる、普段使いできる場所が提供出来ると良い。お洒落が好きな人もいるので、上手く分けながら考えていく事が重要だと思う。

蒲田東地区自治会連合会 会長

以前講演会で、蒲田はガラクタ・おもちゃのまちで、行けば楽しいことがあるまちと言って頂いた。駅周辺に飲み屋は多くあるが、女性にも楽しめる、遊び心がある空間づくりが出来ると良い。広い空間を確保するなら、お金はかかるが、川崎駅のように地上にバス乗降場を配置し、2階デッキレベルに空間を作れば実現するのではないかと。

⇒座長

「遊び心がある」は非常に良いキーワード。子供の頃の楽しかった思い出から、蒲田で育った子供たちが大人になって、戻ってくるようなまちになると良い。また、子どもが成人を迎え子育てが終わった人たちが戻ってくる可能性も含めてまちをどのように育てていくか考える必要がある。

企画経営部長

ガラクタのまちとあったが、千葉大学の村木先生が講演会で蒲田のまちを「おもちゃ箱をひっくり返したようなまち」と例えた。何でもある面白い空間という事だと思う。蒲田がおしゃれできれいなまちになる必要はないというご意見があったように、そこが、蒲田に愛着がわく理由なのだと思う。

大森や蒲田は東京駅や横浜に行くには便利だが、区内の移動が不便と言われている。羽田空港から調布地区に行くのも不便である。解消したいという思いから、新空港線の実現を目指している。

ハード整備だけでなく、ソフト施策である子育てや福祉等とも組み合わせながら進めていく必要がある。そういう観点から考えると、駅前空間はただ便利になるだけではなく、居心地の良い等の観点も必要になってくる。東口広場では、歩行者空間を広げる工事を行っている。地下自転車駐車を整備し、放置自転車をなくし、人々が集える快適な場所にしていきたい。西口広場は新橋駅のSL広場とほぼ同じ面積だが、SL広場の方が広く感じる。空間の使い方の工夫が必要なのだと思う。喫煙所については、議論して現在の場所になったが、今後、考えて行かなくてはいけない。バス通りについても検討を進める必要がある。

⇒座長

お金を出してでも蒲田に行きたいというまちの魅力を考える。新空港線が出来るときがピークではなく、そこから20年後にピークを持つていくためにまちをどう育てるかを皆さんと一緒に考えていく必要がある。

副座長

JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅のように、近くにありながら上手く繋がっていない公共交通を結ぶ事で、人々の移動の向上に繋がることを期待している。2023年に新横浜線が開通したことで、沿線に住む私自身が人の流れの変化と利便性の向上を実感している。

横浜みなとみらいにある三菱重工業の造船所跡地の再開発では、グランモール公園に面する所は必ず店舗を入れるよう都市デザインで誘導されている。これから蒲田で建替えが進む中で、一階に店舗があり、賑わいがある街並みが蒲田の良さであり特徴だと思うので、JR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間のエリア、JR・東急蒲田駅西口エリアでもいかしていく必要があると思う。

2022年に仙台市の青葉通仙台駅前エリアで2週間、道路を歩行者空間化する社会実験を行った。焚火をするイベントだったが、このために期間中はバス停を仮移設していた。先ほど、シンボル道路の歩行者空間化という事をおっしゃっていたので、場所が似ており蒲田でも出来る可能性はあると感じた。

海外の先生に都市を案内すると、渋谷より下北沢の再開発を褒める方が多い。下北沢の小田急線が地下化した跡地の再開発で1階レベルが充実しており、人々が車を気にせず歩ける空間が求められているという事なのだと思う。

◆その他・閉会

- ・第20回蒲田都市づくり推進会議を閉会。

以上

当日の状況



令和6年度 蒲田都市づくり推進会議 構成員名簿

役職	区分	氏名	所属・役職等
座長	学識 経験者	大 沢 昌 玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授
副座長		大 森 文 彦	東京科学大学 環境・社会理工学院 准教授
委員	地元 関係者	小 山 君 子	蒲田東地区自治会連合会 会長
		藏 方 庸 光	蒲田西地区自治会連合会 会長
		田 中 彰 一	蒲田東口地区まちづくり協議会 会長
		藤 田 義 行	蒲田東口商店街商業協同組合 理事長
		森 田 充 浩	蒲田西口商店街振興組合 理事長
		望 月 清 志	蒲田大好き委員会 会長
		田 中 常 雅	蒲田再開発推進委員会 委員長
		宮 澤 勇	特定非営利活動法人 大身連 理事長
	区議会 議員	高 瀬 三 徳	まちづくり環境委員会 委員長
		秋 成 お さ む	まちづくり環境委員会 副委員長
	東京都	荒 井 大 介	都市整備局都市基盤部 交通企画課長
		桂 健 太 郎	都市整備局都市基盤部 街路計画課長
	大田区	池 田 中	鉄道・都市づくり部長
		齋 藤 浩 一	企画経営部長（鉄道・都市づくり部 参事）
		山 田 誉	鉄道・都市づくり課長
		西 山 正 人	まちづくり推進部長
		深 川 正 浩	まちづくり推進部 都市計画課長
		戸 塚 俊 二	まちづくり推進部 公共交通・臨海部担当課長
		立 花 匡	まちづくり推進部 防災まちづくり課長
		首 藤 拓 郎	鉄道・都市づくり部 新空港線・沿線整備担当課長
藏 方 博 史		鉄道・都市づくり部 拠点整備第二担当課長	
杉 茂 樹		鉄道・都市づくり部 蒲田駅拠点整備担当課長	
中 村 誠		都市基盤整備部 都市基盤管理課長	
厚 川 令 子		都市基盤整備部 都市基盤計画調整担当課長	
谷 田 川 泰		都市基盤整備部 建設工事課長	
石 井 信 一	都市基盤整備部 地域基盤整備第二課長		
オブザーバー	国	柳 田 穰	国土交通省 都市局 都市計画課企画専門官